

6 歳児において道徳的な介入者の年齢は介入の義務・期待に影響を与えるか

檀上 彩夏

【背景】私たちは違反者は罰せられるべきだと考えており、それは社会規範の順守を促すために必要なものである。しかし違反者への介入は特定の役割を持った人が好まれ、同年代の介入は行き過ぎたものとされる。Marshall (2020) の研究から、6 歳ごろから違反行為に対して、権威者の介入を選択的に求め始めるということが分かった。しかし子どもは大人を選択的に頼り、それが規範的な行動だと認識していると示す研究もあり (Rakoczy, Hamann, Warneken, & Tomasello, 2010)、役割ではなく年齢を介入行為の判断要素としている可能性も考えられる。さらにジェンダー研究では男性と女性で求められる役割行動が異なり、男性に対して権威を持つ人という印象を抱いている (Nosek, Banaji, & Greenwald, 2002)。このような性別に応じた役割の概念は 5・6 歳ごろに習得するとされるため(小橋川, 1967)、介入者の性別も子どもの判断に影響を与えるかもしれない。本研究では 6 歳児が年齢を介入の判断基準としているのかについて性別との関連も含め、仮説 I「年齢が高いほど介入行為の期待、義務、直接的な介入行為を求める」仮説 II「介入行為において女性より男性を選好する」の検討を行った。

【方法】 A 認定こども園の 5・6 歳児クラス 38 名を対象とした。イラストを提示し、幼稚園児である A と B が遊んでいる場面に老人 1 人、大学生 1 人、幼稚園児 1 人がいるという状況をみせる。A と B が遊んでいたとき、A が B に対して違反行為をし、①老人/大学生/幼稚園児のそれぞれが介入すると思うか(期待)、②老人/大学生/幼稚園児のそれぞれが介入するべきだと思うか(義務)、③老人/大学生/幼稚園児のうち誰が一番介入の義務があるか(義務選択)、④老人/大学生/幼稚園児のそれぞれが介入する場合、どのような行動をとるか(具体的な内容) の 4 つの質問をした。

【結果と考察】 年長者に介入を求めるという結果は見られなかった。しかし大学生に対して有意に介入が求められていたため、介入行為における年齢の要因は一部支持された。具体的な介入行動については年齢が上の介入者に直接的な罰を期待した。性別による介入の判断の違いはなかった。したがって、仮説 I は一部支持されたが仮説 II は支持されなかった。完全に関連がみられなかった理由として年長者を社会的弱者と認識し、権威がある人物として認識していない可能性がある。一方で具体的な介入内容に関しては、権威者に求められることが多い直接的な罰を、大学生、老人に求めていた。すなわち権威の有無に関わらず、介入者の年齢に影響を受け、年齢が上の人に直接的な罰を求める可能性がある。性別に関しては近年ジェンダーの認識が多様化し、性的役割の認識が男女間で変わらなくなってきたことが明らかになっている。そのため性差が介入行為に及ぼす影響が見られなかったのではないだろうか。しかし、本研究はサンプルサイズが小さいという問題もあるため、適切なサンプルサイズを増やしてから再度検討することが必要である。また本研究で明らかになった結果は年長者に着目してどのように判断するかに重きを置いた研究であり、大学生がなぜ有意に選ばれていたについては深く検討できていない。したがって、今後の研究では年齢のどのような面が、介入者として選ばれる上で好まれているのかについて、介入者の特性などを要因として検討を行うべきである。(比較発達心理学)